

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	ゆりユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和2年 12月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である田中病院と協力・連携し、常にご利用者様を中心に考え対応しています。24時間対応可能な体制が出来ている為、ご家族様にも安心していただいています。その他、ゆりかもめから毎月発送している郵便物の中に、ご利用者様の近況を伝えるお手紙や職員が交代で作成している「ゆりかもめ便り」に毎月の行事や誕生会の写真を掲載、同封しお送りしています。今年度はコロナの為、行事の殆どが出来ず、ご利用者様のリハビリも中止となった為ケアプランに沿った運動実施の為の声掛けや残存機能維持の為の声掛けを行い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院に隣接するグループホームであり、災害対策や医療支援対策の構築に取り組んでいる。ホームの理念である「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を共有し、日々の支援に取り組んでいる。また地元自治会との交流や高校生の実習を受け入れるなど地域密着型サービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲げ、地域密着型としての意義を踏まえ、職員間で共有し、個々のご利用者様に合わせた対応を行っている。	玄関にホームの理念と介護目標を掲げている。「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を全職員で共有し日々の支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の理容所に来所してもらったり、門川高校の実習生の受け入れ等を行い、地域の一員としての交流を実施している。 (今年度は状況に合わせて対応)	自治会に交流会の案内を配布し参加が得られるように努めている。地元高校生の実習の受け入れるなど地域交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等において、区長・民生委員の方に事業所における職員の対応や介助方法を報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ごとに、行事や職員の取り組みについて報告し話し合いを行い、意見等が出た場合は参考にさせてもらっている。 (今年度は会議が出来ず、資料送付のみ)	会議では報告と共に、意見や提案があり、自治会の回覧板を利用して行事案内をするなどの提案をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所において疑問点や問題点がでた場合は、すぐに連絡をとり状況を報告し、協力関係を築くようにしている。	会議には町役場担当者の出席があり、ホームの実情や取組を報告している。また、状況変化や問題点などを相談し、協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」を三か月に一度行い、その内容と資料を職員全員に回覧し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠に関してはその都度の対応となっている。	管理者がデスクワーク時には玄関を開錠できるが、マンパワー不足もあり、外出願望の強い利用者への対応は困難でやむなく施錠している。	管理者や職員は身体拘束の弊害を十分理解しているが、施錠しなくても済むような就労環境の改善に期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、日頃より職員間で意識しあい注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されているご利用者様が1名入居されており、対応・支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に来所いただき疑問点があればお聞きし説明。入居される際の契約時に再度説明し納得・理解していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来られた際に、ご意見をお聞きしたり「何かあればお伝え下さい。」と常に声掛けし、内容によっては職員間で共有し、対応している。		利用者や家族の意見や要望を運営に反映できるように声掛けを行い、出された意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを実施し、意見や提案を聞く機会を設け話し合っている。		カンファレンス時に出された意見や要望を管理者は母体である病院に伝えているが職員の意見の反映に至っていない。 代表者も職員の意見を聞く機会を設け、意見を反映させるような取組に期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体である病院には意見を伝えているが、なかなか改善には至らない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はコロナの為、あまり研修には参加していないが、院内研修や院外研修の参加は積極的に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナの為、交流する機会はあまりないが、相互に会議等に参加しサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の要望や意見に耳を傾け話を聞き、関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方の話や要望なども、なるべく耳を傾け、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要としている支援を見極め考慮し、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の暮らしに沿ったサービスを行い、関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナの、面会の制限があるが、毎月お手紙を送付し近況報告をして、ご利用者の状況に応じて協力していただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、面会も制限があり玄関の扉越しでの対応となっている為、会話も制限されている。	誕生会を兼ねての外出や馴染みの方との面会の支援に努めている。現在直接面会は出来ないが、玄関のガラス越しの面会を実施し、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等声掛けしながら、ご利用者様皆で一緒に出来る様に職員間で心掛け支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望等あれば、その都度対応し相談にのっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や担当者会議の時等に、ご利用者様の希望などをお聞きし、把握に努めている。困難な場合には、その方の状況に合わせて検討、対応している。		会話のできる利用者には思いや意向を聞き、会話が困難な利用者には歩き方やしぐさや様子から判断し対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の情報を職員間で共有し、その方の暮らし方に合うよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いせず、その方の体調などに合わせ対応し、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・ケアマネジャー・管理者・看護師・担当職員等で担当者会議を実施し、ケアプラン作成の為に話し合いを行い作成している。(現在はコロナの為、ご家族様の参加はない)		モニタリングは担当職員が月に1回行っている。家族に意見をもらえるよう前月に介護計画の更新を手紙で伝え、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でご利用者様の日々の様子をケア記録で共有し、意見交換しながら見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度対応し、柔軟な支援に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様本人が、安全・安心な生活を楽しむことができる様に支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族様の希望を大切に、担当医との関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での申し送りや情報を看護師に伝え相談し状況に応じて指示を受け、ご利用者様が個々に適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、入院時の治療が安心して出来る様に、早期に退院出来る様に、病院関係者と情報交換し、日頃から関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際に契約書においてご家族様には、重度化した場合や終末期における対応の説明を行い同意していただき、また変更がある場合は連絡していただくよう説明している。		入居時に重要事項説明書で看取り指針や要望についての説明をして同意を得ている。変更は可能と伝え方針を共有し、ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生の際は看護師の指示に従い、病院と連携し対応。職員も救命救急の研修を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時はマニュアルに沿って避難出来るように、昼夜を問わず病院との協力体制を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを考慮し、その方に合った言葉かけを行い、対応している。		利用者の生活歴などにも考慮し、周りや場所に配慮しながら誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用様が希望される事をお聞きしたり、自己決定が出来る様に声掛け支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見を聞き、希望があればそれに沿うよう支援し、その日の体調に合わせて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用様の希望に応じて、化粧水や乳液・衣類等購入し、使用していただいている。 (現在はコロナの為、外出出来ず)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、好みや嫌いなもの等お聞きし、出来ることは声掛けして手伝っていただいている。		利用者の好みを聞き個々に合わせ支援している。誕生日や行事食にも希望を取り入れ、時には園庭での野菜を利用するなど食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取は、その方の栄養状態や体調に合わせて対応し、水分は食事時・おやつ時・入浴後等脱水にならないよう摂取していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにおいては、その方に合わせ自分で出来る方は声掛け・見守りで行っていただき、介助の必要な方は介助する。			

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に一人ひとりに合った時間帯に声掛け・誘導し、本人様出来る事は見守り・支援している。	排泄チェック表を利用し、パターンの把握に努めるなどトイレでの排泄支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認し看護師と相談しながら、牛乳摂取や一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望をお聞きし、出来る限り個々に応じた対応で支援している。	入浴を拒む場合は、無理強いせず、言葉かけに配慮するなど個々に合わせ支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて考慮し、空調に関してはエアコン等で対応し適温で快適に過ごしていただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をし、変更があった場合は申し送りで職員に伝えられる。その際、副作用・用法・用量の説明を受け、その後のご利用者様の症状の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特定のおやつを希望されたり固執されたりするご利用者様もおられ、その場合はその都度対応。進んでされる事に対しては声掛け・支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの影響で外出支援は出来ないが、状況が改善された場合は、ご家族とも連携する下地は整っている。	気候の良い時期は外気浴やドライブなど外出支援に取り組んでいる。家族の協力も得て利用者の希望に沿うよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	ゆり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるご利用者様は、自分で管理されているが、通常は金庫に保管している。職員同伴であれば買い物も可能。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合は、時間帯を考慮し対応。手紙やハガキの希望があればその都度対応し支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の意見を聞き、エアコンで温度管理をしている。壁面の季節飾りをご利用者様と一緒に作り変えている。		季節を感じる装飾や、利用者の作品を飾り、利用者がゆっくりと過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席も、なるべく会話しやすい配置にしている。歩き回るご利用者様の休憩場所としての椅子も置いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みのある物や、写真などを持ち込んでいただいている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台を導入し昇降運動をしたり、廊下手すりを使い立位運動をしたり、職員が見守りしながら実施されている。			